

令和6年度 富士河口湖町総合教育会議 議事録

日 時：令和6年11月27日(水) 13:30-14:50

会 場：町役場3階 304会議室

出席者：町長、副町長、松浦一幸教育長
小林和子委員、堀内智美委員、泉和章委員、小林明委員
学校教育課 ー 三浦課長、
生涯学習課 ー 土屋課長
文化振興局 ー 野沢局長【公務のため欠席】
教育センター ー 渡辺センター長

(事務局)
清水政策企画課長、小佐野係長

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 協議

- ・教育大綱について
- ・教育長より教育関連施策について
- ・教育センター長より教育センター事業について
- ・懇談、意見交換

4. 本日の懇談のまとめ

5. 閉会

【総合教育会議の概要】

■令和6年度の総合教育会議の開催について

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、総合教育会議が設置された。
- 教育は町の発展と人口減少の要であり、施策の重要性が強調された。
- 子どもたちの教育レベル向上を目指し、地域の活性化と持続可能な発展を図る。
- 勝山中学校の教室増設や小立保育所の建設計画が進行中。
- 河口湖北中学校の統合に関する議論があり、生徒数の減少と老朽化が懸念されている。
- クラブ活動の選択肢が限られているため、統合の必要性が指摘された。
- 英語教育の強化が求められ、地域間での語学力向上が重要視されている。
- 教育大綱の見直しが行われ、ICTを活用した学習環境の充実が提案された。
- 生涯学習の重要性が強調され、学んだことを社会活動に生かすことが目指されている。

■令和6年度の教育関連施策について

- 学力向上と自立する力の育成を目指し、人的資源の充実を図っている。
- 町単教員や支援員の配置により、様々な学習形態を提供している。
- ICTの活用を進め、教員への研修を実施している。
- インクルーシブ教育に基づき、特性を持つ児童生徒への個別支援を行っている。
- スクールソーシャルワーカーが家庭や生活環境に課題を抱える児童生徒を支援している。
- 地域ボランティアによる学習支援や教育センターでの研修が行われている。
- 学校間や校種間での合同授業や交流活動を推進している。
- 保育所と小学校、小学校と中学校の連携を強化し、円滑な移行を図っている。
- 就学相談の充実が求められており、対象児童が増加している。
- 全国学力学習状況調査では、県レベルや全国レベルと同等の結果が出ている。
- 子どもたちの意識調査では、いじめの否定や人の役に立ちたいという意識が高い。
- 学校の安全・安心づくりやいじめ対策、通学路点検を実施している。

■子どもたちの社会教育活動や社会体験の推進について

- 子どもたちの社会教育活動や外遊びを推奨し、体力向上を目指す。
- 学級指導や保健指導が中心で、教員の意識改革が必要とされている。
- 教員同士の会話が教育のヒントになることが多く、そうした時間が重要視されている。
- 学習環境や予算面での課題があり、全国学力調査などの取り組みが進められている。
- 特別な配慮が必要な児童が増えており、人的配置の強化が求められている。
- 教育センターは不登校の子どもへの支援を行い、相談件数が増加傾向にある。
- 代替派遣制度を利用し、教員の休暇時に授業を行う取り組みが進められている。
- 地域を活かした体験活動や歴史学習のプログラムが実施されている。
- 教職員研修やICT研修の実施が行われ、情報の収集と整理が進められている。

■富士山学習と防災教育の取り組みについて

- 富士山の火山防災教育に力を入れ、授業を通じて研究を行っている。
- 学校での引き渡し訓練を実施し、行政と連携した避難訓練を行っている。
- ジュニア防災士講座を通じて子どもたちに防災意識を育てる取り組みを行っている。
- 小学校と保育所の連携を図り、年長と小1をつなぐプログラムを研究中。
- ICT研修を通じて情報教育の充実を図り、多くの教員が参加している。
- 部活動の地域移行に関する課題や保護者・子どもたちの負担について意見が交わされた。
- 部活動の人数が少ないことから、合同での活動や統合の選択肢が提案された。

■教育に関する意見交換

- 吹奏楽活動において、地域の先生と生徒が協力して音楽を作ることが重要である。
- 小規模校と大規模校の特性について、それぞれのメリットやデメリットが存在することを確認。
- 25人学級の導入が進んでおり、教育環境の改善が期待されている。
- ITC活動が進化し、授業がスムーズに行われるようになっている。
- 給食費の無償化が親にとってありがたいと感じられている。
- 教育センターが不登校生徒をサポートしており、卒業を果たすことができた事例がある。
- 地域の指導者によるカヌー部の活動が盛況で、良い成績を収めている。
- 勝山中学校の生徒による太鼓の演奏が地域交流に寄与している。
- ピアノコンサートが多くの子供に音楽の魅力を伝えた。
- 指定校制度の見直しが必要であるとの意見が出ている。
- 保護者の意見を教育委員会が反映させるべきとの提案がある。

■地域の教育政策と人口減少に関する議論

- 地域の小学校の存続と教育の質の向上に対する意見が交わされた。
- 教育行政の手厚さに感謝する声があり、特に教員の確保や25人学級の必要性が強調された。
- 人口減少が進む中で、教育が地域の持続可能性に重要であるとの意見があった。
- 教育委員の構成メンバーの多様性が活性化に寄与しているとの意見が示された。
- 行政サービスの維持が困難になる可能性があり、特に教員不足が懸念されている。
- 地域の教育施策と子育て支援策が連携することで、子育て世代を引き寄せる必要があるとされた。
- 将来のビジョンを持ったリーダーシップが求められているとの指摘があった。
- 移住促進や地元企業の誘致が重要であり、若い世代を定住させる施策の必要性が強調された。

■地域の企業誘致と教育施策についての意見交換

- コロナの影響で地域経済が悪化する可能性があるため、企業誘致を進める必要がある。
- 大きな土地が不足しているため、県有地や改良区を活用した施策を考えている。
- 子育てと教育施策が地域に住む世代を呼び寄せる重要な要素である。
- 町の施策を積極的に発信し、住みやすさをアピールすることが求められている。
- 企業誘致には工業団地の整備や税制優遇が必要であり、迅速な対応が求められる。
- 未婚の女性や非正規雇用者を呼び込む施策も重要で、地域の人口増加に寄与する。
- 教育委員会の独立性と町長のリーダーシップが施策の進行に影響を与える。
- 参加者からの意見を教育施策や町全体の施策に反映させる意向が示された。